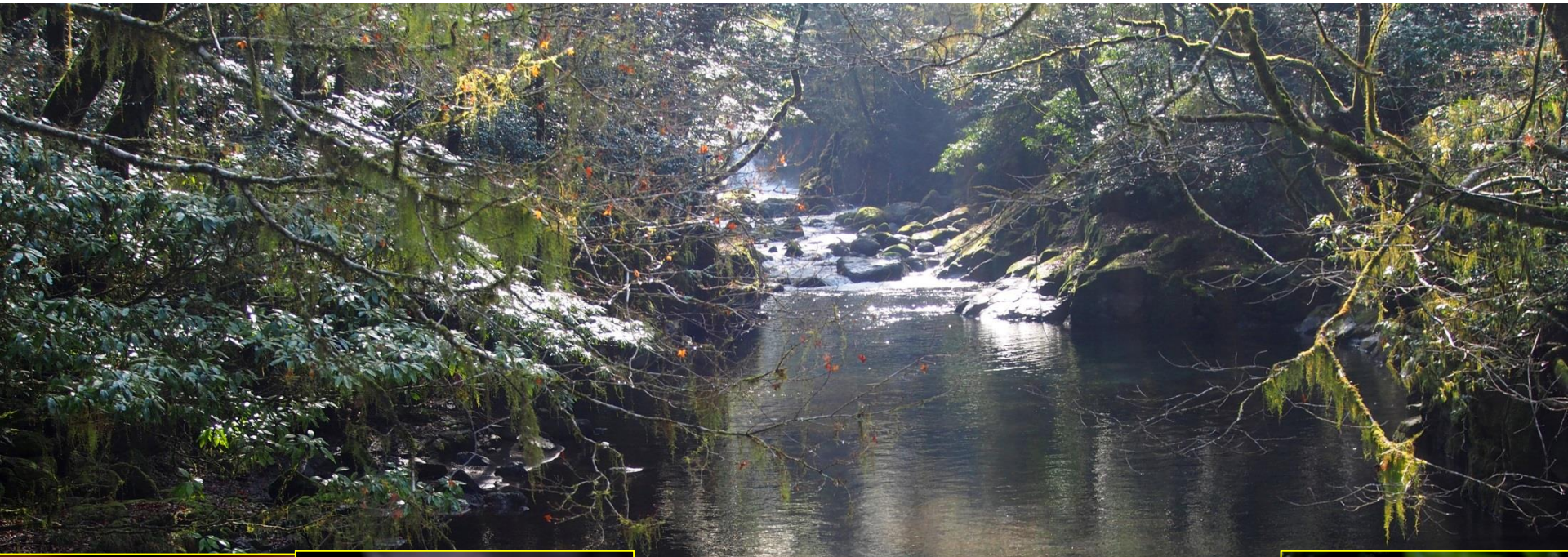
2016.03.14

37会、菊池渓谷、二重峠、雑魚屋　熊本東急REI店

1　菊池渓谷の
フウロケマン、ユリワサビ、サツマイナモリ



菊池渓谷駐車場

黎明の滝

黎明の滝

黎明の滝　由来

れいめい　たき

"Reimei" waterfall 레이메이노타키 폭포

上流は緩やかな石畳の紅葉ヶ瀬それを覆う緑の原生林、奇岩、怪石の渓谷のあいまを縫って流れ落ちる滝、飛散する水しぶきに朝の太陽が輝いて一帯に霞が立ち込めまさしく夜明を思わせる景観を呈するところからこの名が付けられたという。

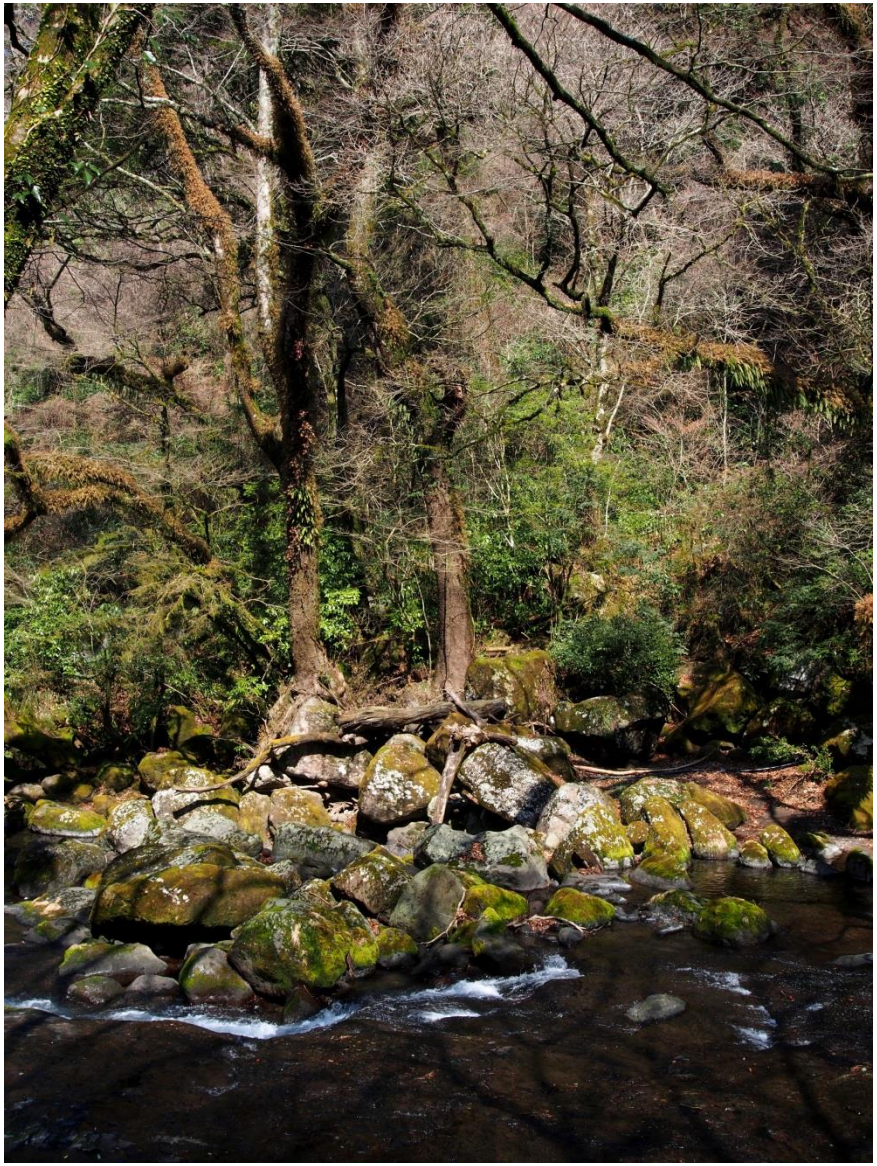
昭和63年3月建立

菊池渓谷を美しくする保護管理協議会

黎明の滝

広 河 原

名水百選
菊池水源



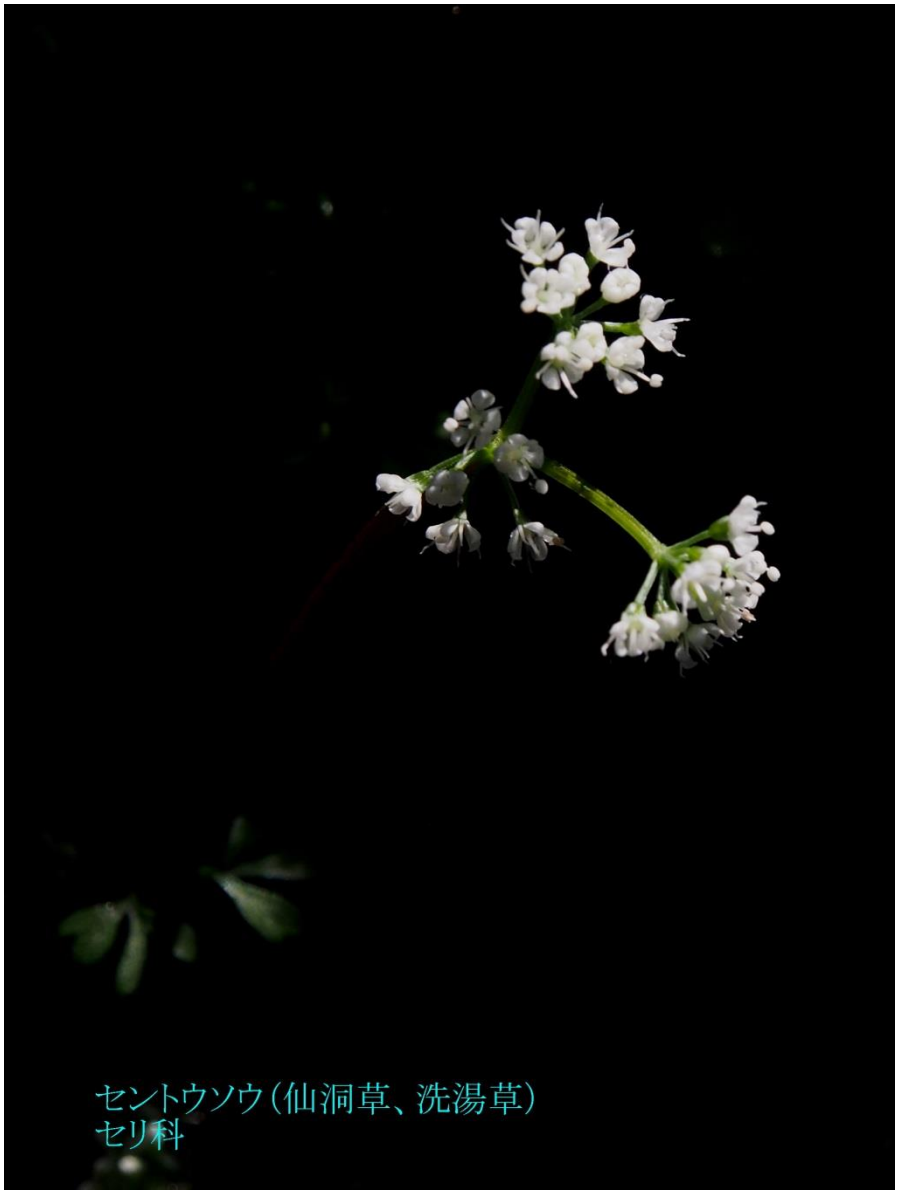
フウロケマン（風露華曼）　ケシ科

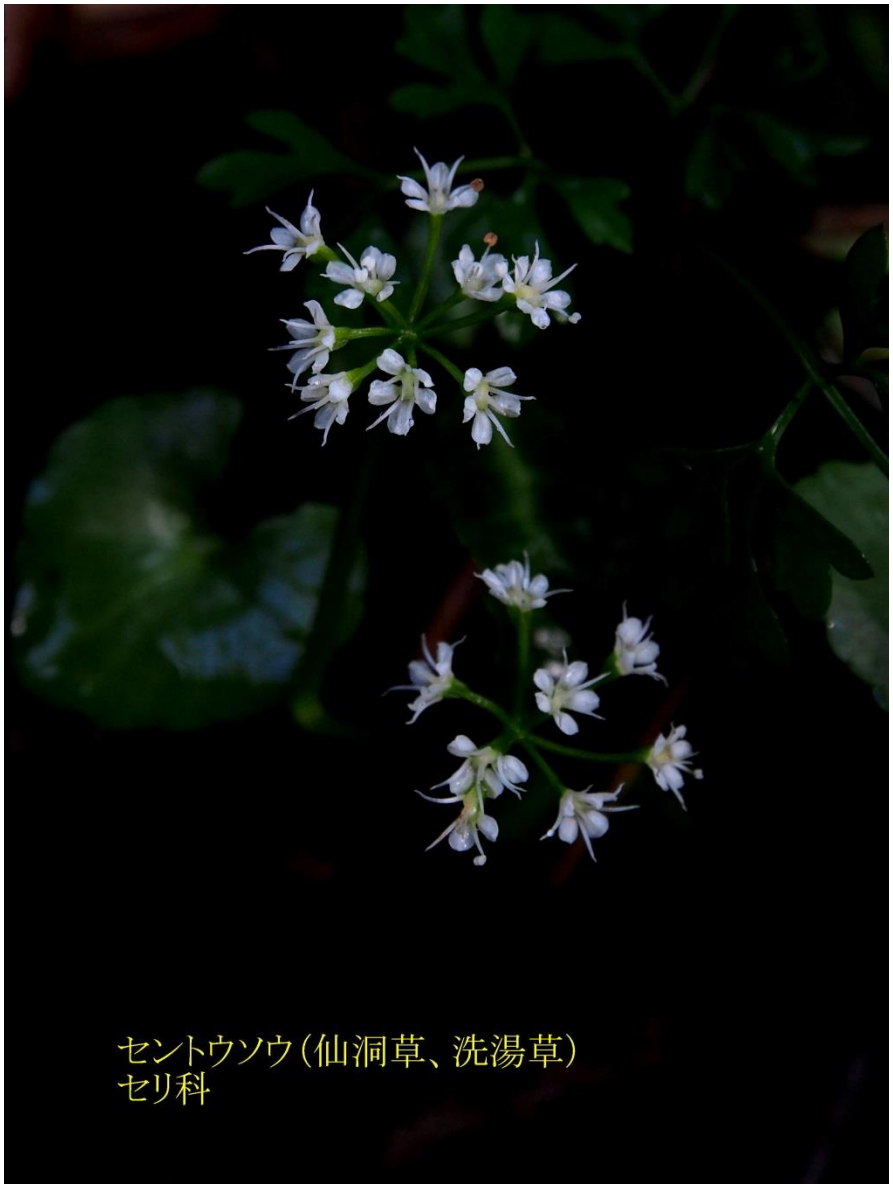
ユリワサビ(百合山葵)　アブラナ科

ユリワサビ（百合山葵）　アブラナ科

ユリワサビ（百合山葵）　アブラナ科

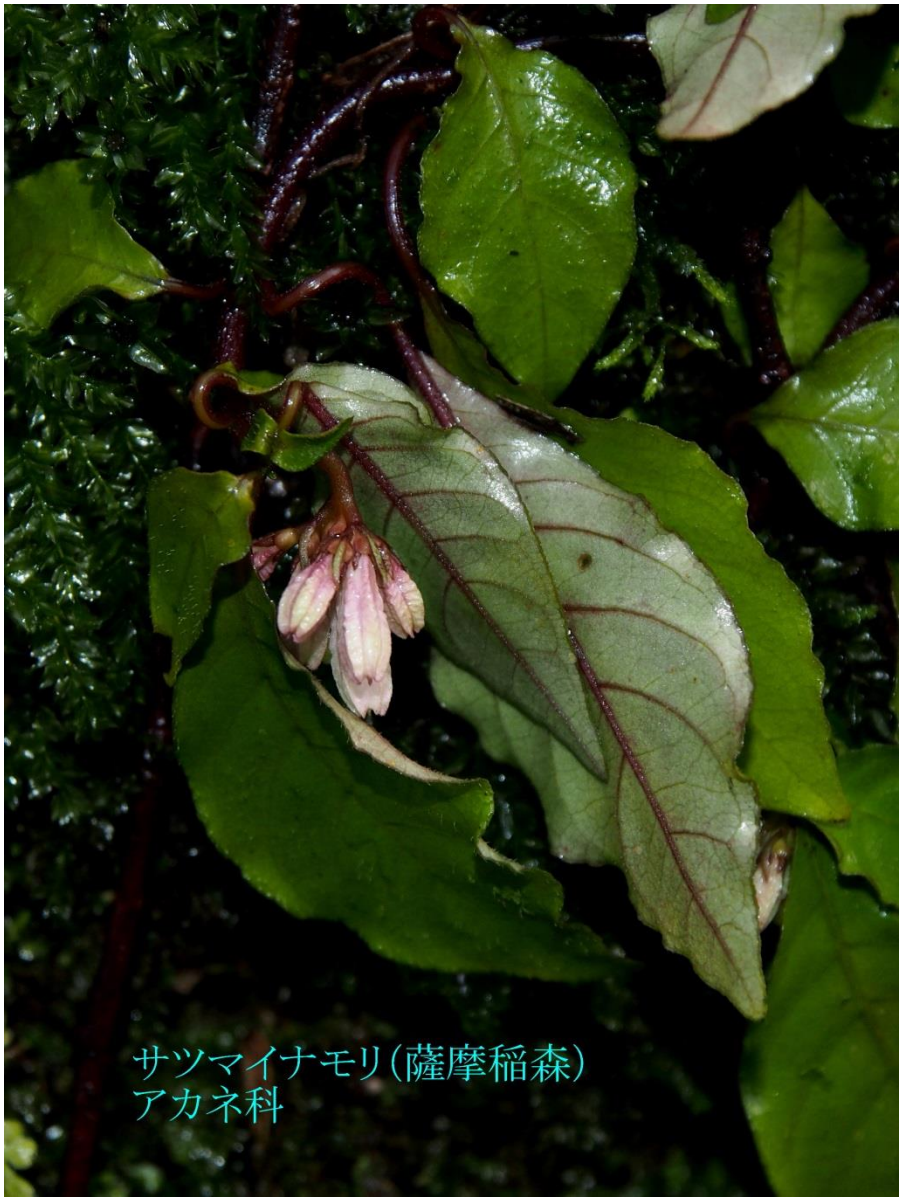
セントウソウ(仙洞草、洗湯草)　セリ科

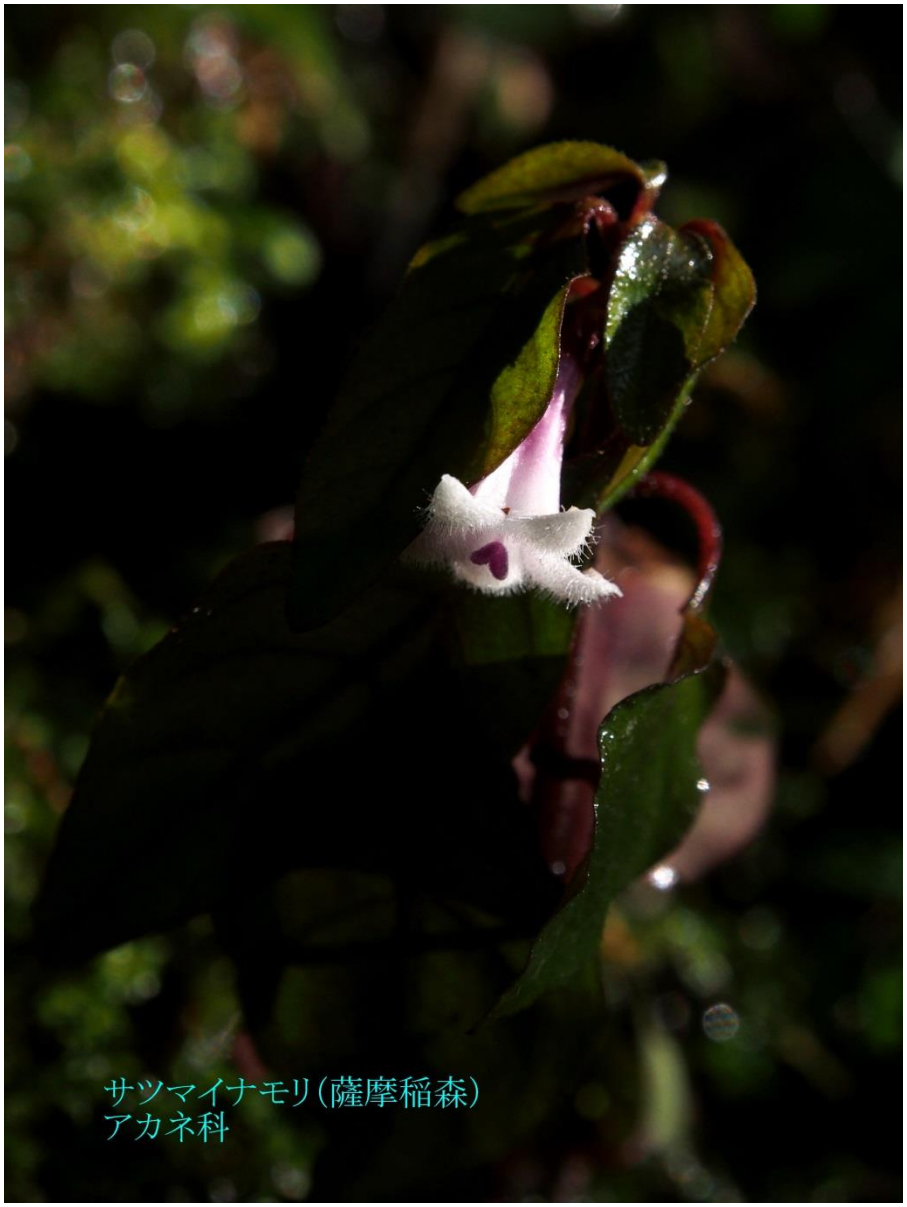




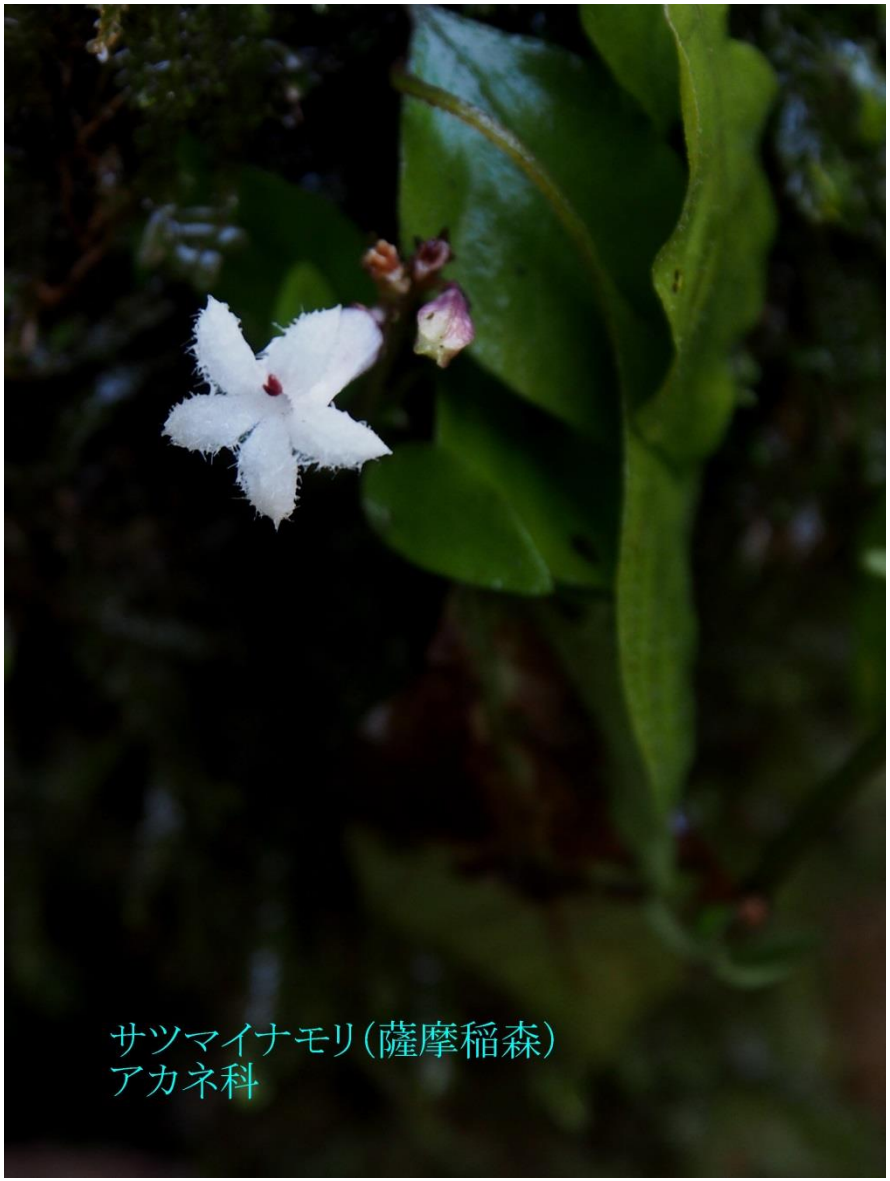
セントウソウ（仙洞草、洗湯草）　セリ科

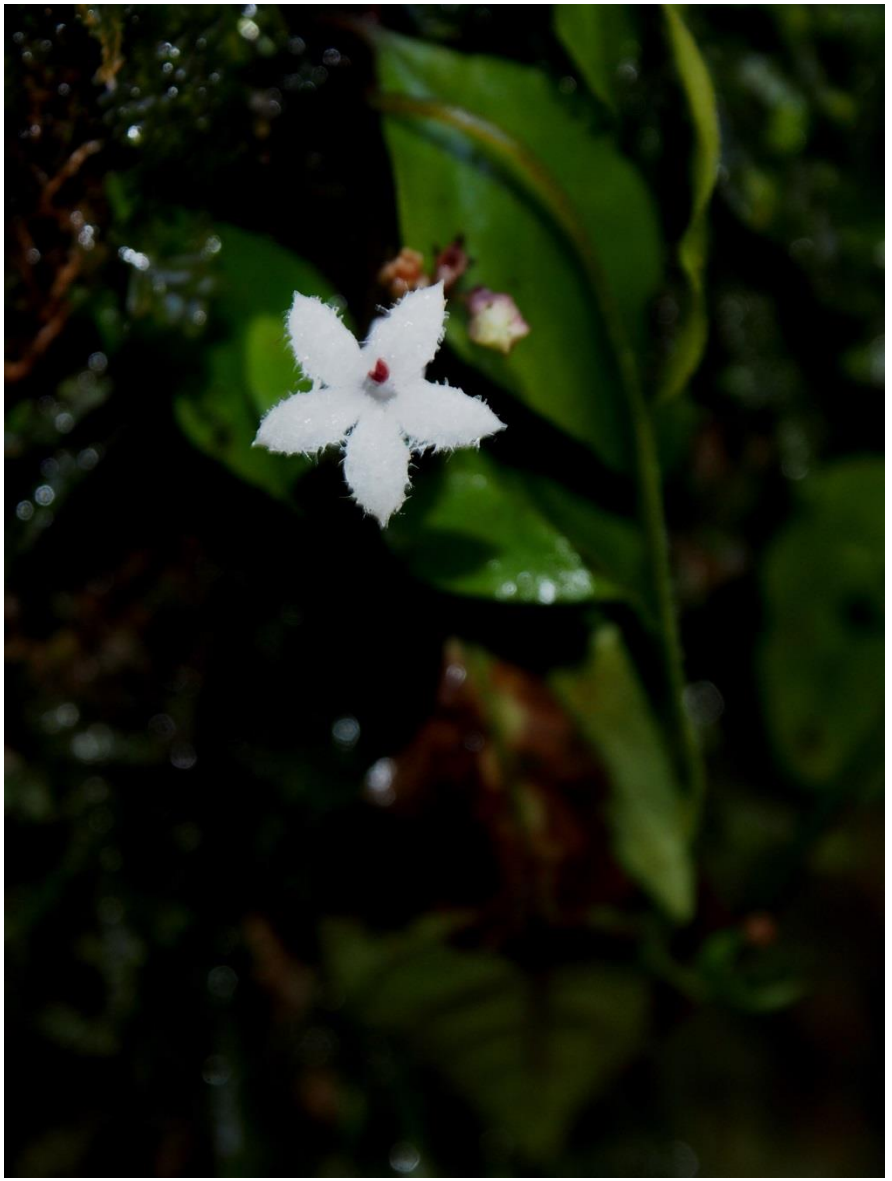
サツマイナモリ(薩摩稲森)　アカネ科





サツマイナモリ(薩摩稲森)　アカネ科





フユイチゴ（冬苺）　バラ科

ヤブツバキ(藪椿)　ツバキ科

ヤブツバキ(藪椿)　ツバキ科

ヤマガラ(山雀)　シジュウガラ科　L=14cm

ウグイス(鶯) ウグイス科

２　阿蘇市・二重峠（ふたえのとうげ）の
ジロボウエンゴサク、ヤマネコノメソウ、ヒメウズ

参勤交代の道（豊後街道）

Road of Sankin-kotai * (Bungo Kaido)

참근교대의 길(분고카이도(豊後街道) 가도)

「参勤交代」之道（丰后街道）

「參勤交代」之道(豐後街道)

この道は藩政時代、肥後と豊後鶴崎を結ぶ重要な街道として利用されました。

豊臣秀吉が天下を統一し、加藤清正が肥後に入国すると、熊本から鶴崎までこの道を使い、鶴崎からは船で大阪を往復しました。

江戸時代になり、参勤交代制度が確立すると、細川藩も、江戸往復にこの街道を利用しました。

街道沿いには、熊本城の西大手門(新町一丁目)を起点として一里ごとの目印となる里数木が植えられ、休憩するところには御茶屋が設けられていました。

この道を谷内に下ると、今でも往時の石畳や御茶屋跡が残っています。

*official attendance service by feudal lords in the Edo period

Bungo Kaido was used as an important route that connected Higo and Tsurusaki, Bungo (Oita) during the domain administration period.

After Hideyoshi Toyotomi unified the whole country and Kiyomasa Katō entered Higo (Kumamoto) to rule the province, Kato used this road to and from Tsurusaki, where he took a ferry to and from Osaka.

During the Edo period (1603-1867), as the Sankin-kōtai system was established, the Hosokawa domain also started to use the road when they traveled back and forth between Edo (Tokyo).

Along the road trees were planted separated from one another by one ri (an old Japanese unit of distance, approx. 3.9 km or 2.4 miles), marking the distance from the starting point at the west main gate of Kumamoto Castle (current address is Shinmachi 1). Tea houses were set up at resting points as well.

The ancient stone paving and the remains of a teahouse can be seen along the valley down this road.

이 길은 한세시대 히고 (肥後) 지역와 분고쓰루사키 (豊後鶴崎) 지역를 잇는 중요한 가도로서 이용되었습니다.

도요토미 히데요 (豊臣秀吉) 시가 천하를 통일하고, 가토 기요마사 (加藤清正) 가 히고로 입국해서 구마모토(熊本)에서 쓰루사키 (鶴崎) 지역까지 이 길을 사용하고, 쓰루사키지역에서는 배로 오사카 (大阪) 를 왕복하였습니다.

에도시대 (江戸時代) 가 되어 참근교대제도가 확립되자 호소카와한 (細川藩) 도 에도 왕복에 이 가도를 이용하였습니다.

가도를 따라서 구마모토조 (熊本城) 성의 니시오테몬 (西大手門)(신마치 1초메(新町一丁目)) 지역을 기점으로 십리마다 이정표가 되는
나무가 심어지고, 휴게하는 곳에는 찻집이 마련되었습니다.

이 길을 골짜기 안으로 내려가면 지금도 왕년의 돌길과 찻집 터가 남아 있습니다.

这条道路在藩政时代，被当作连结肥后与丰后鹤崎的重要街道被加以利用。

在丰臣秀吉统一天下，加藤清正进入肥后之后，由熊本到鹤崎都使用这条道路，由鹤崎可以搭船连结大阪。

到了江户时代，「参勤交代」（出来做官替君主服务）制度确立之后，细川藩也将这条街道当作往返江户之用。

沿着这条街道，以熊本城的西大手门（新町一丁目）作为起点，每一里都种上里程树以作为记号，并在休息的地方设置了茶馆。

由这条道路来到谷内，则可以看到至今仍保留着的以往的铺石地或茶馆的遗迹。

這條道路在藩政時代，被當作連結肥後與豐後鶴崎的重要街道被加以利用。

在豐臣秀吉統一天下，加藤清正進入肥後之後，由熊本到鶴崎都使用這條道路，由鶴崎可以搭船連結大阪。

到了江戶時代，「參勤交代」（出來做官替君主服務） 制度確立之後，細川藩也將這條街道當作往返江戶之用。

沿著這條街道，以熊本城的西大手門（新町一丁目）作為起點，每一里都種上里程樹以作為記號，並在休息的地方設置了茶館。

由這條道路來到谷內，則可以看到至今仍保留著的以往的鋪石地或茶館的遺跡。

熊本県

この道は藩政時代、肥後と豊後鶴崎を結ぶ重要な街道として利用されました。

豊臣秀吉が天下を統一し、加藤清正が肥後に入国すると、熊本から鶴崎までこの道を使い、鶴崎からは船で大阪を往復しました。

江戸時代になり、参勤交代制度が確立すると、細川藩も、江戸往復にこの街道を利用しました。

街道沿いには、熊本城の西大手門(新町一丁目)を起点として一里ごとの目印となる里数木が植えられ、休憩するところには御茶屋が設けられていました。

この道を谷内に下ると、今でも往時の石畳や御茶屋跡が残っています。

往生岳1270m
杵島岳1326m
烏帽子岳1337m

杵島岳1326m
往生岳1270m

烏帽子岳1337m

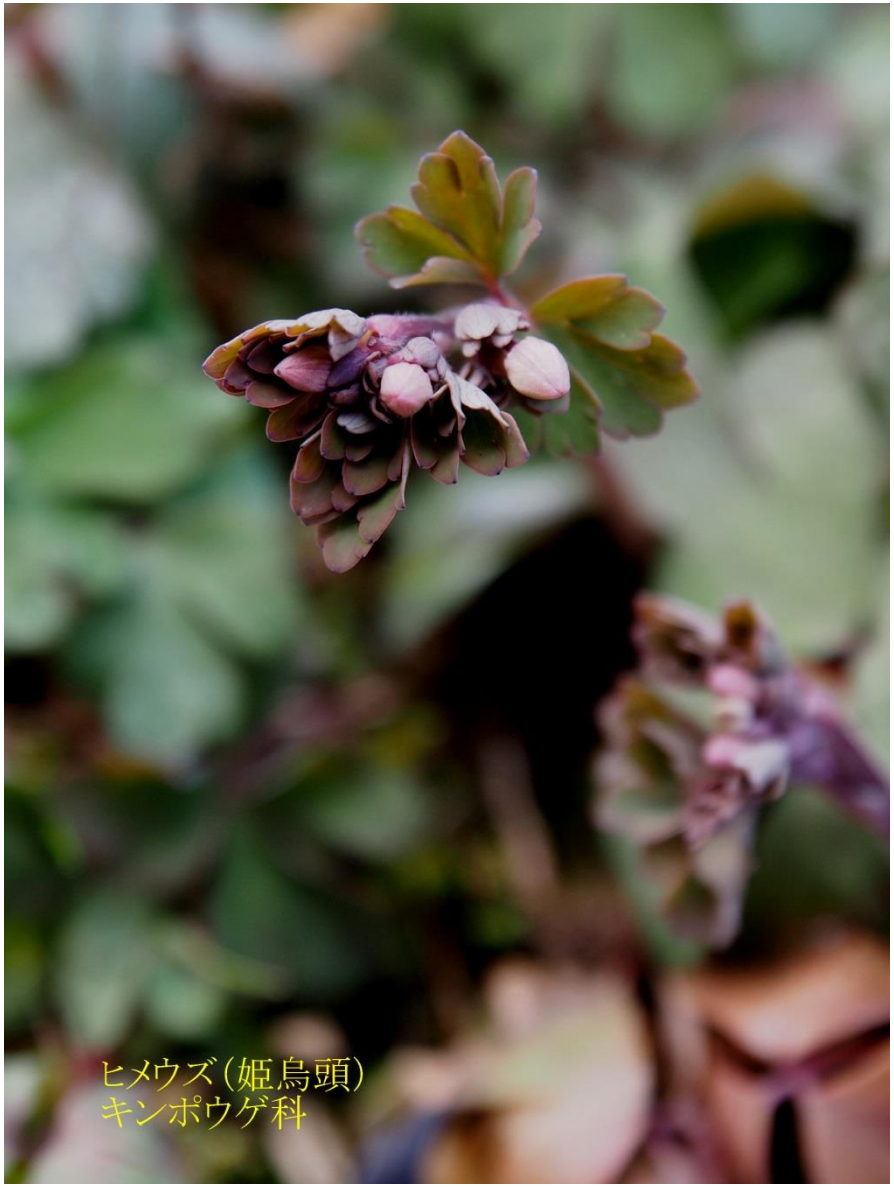
石畳の文字石

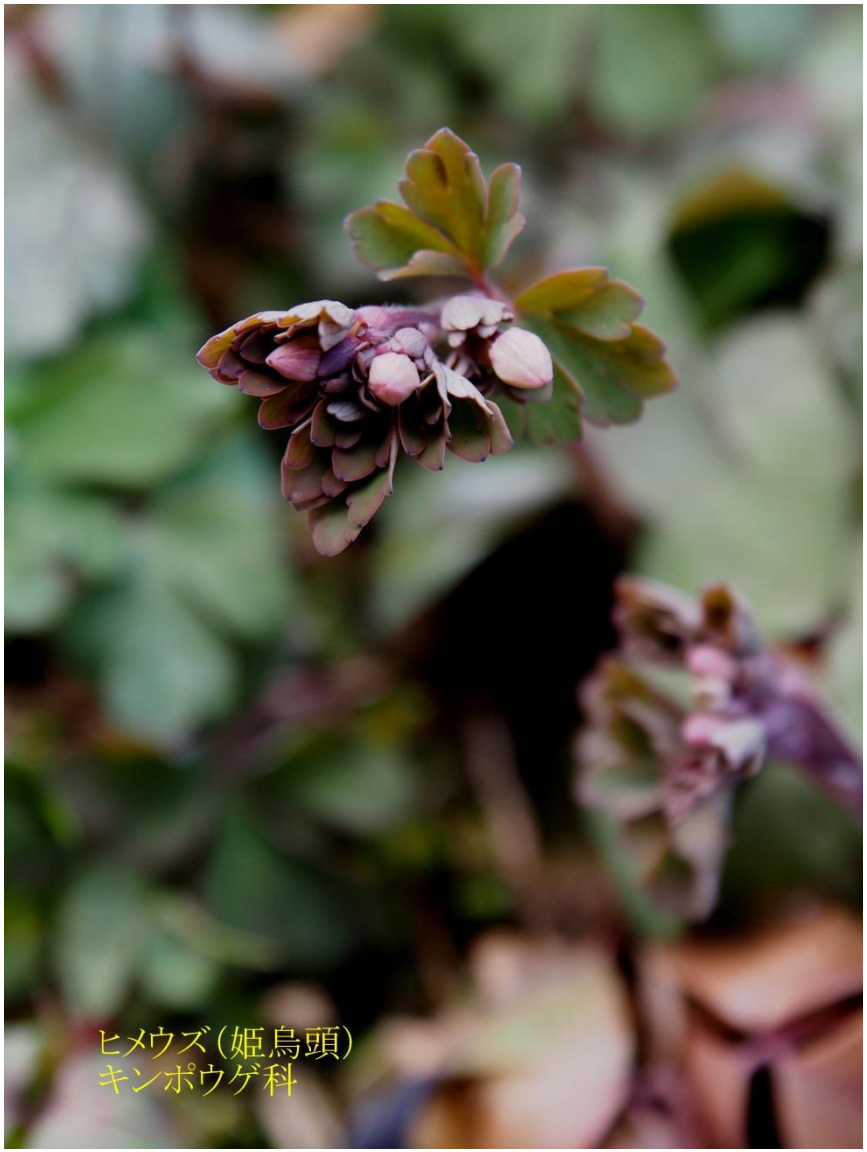
「岩坂村つくり」

道普請に駆り出された農民が、仕事の合間に掘った文字でしょう。岩坂村は、白川を隔てて大津町の対岸にあった村で、昔は布田手永に属し、今は大津町にはいっています。

岩坂村から、この現場まで三里（十二キロメートル）の道程があり、道普請に使役された農民の苦しみを物語る唯一の遺物です。

岩坂村と刻まれている。


ヒメウズ（姫烏頭）
キンポウゲ科



ヒメウズ（姫烏頭）
キンポウゲ科

ツクシショウジョウバカマ（筑紫猩々袴）
ユリ科

ジロボウエンゴサク（次郎坊延胡索）
ケシ科

ヤマネコノメソウ（山猫の目草）
ユキノシタ科

ヤマエンゴサク（山延胡索）ケシ科

３ 3月7日のﾌｸｼﾞｭｿｳの籾山神社行き反省会
（雑魚屋　熊本東急REI店）

消火器
FIRE EXTINGUIS
使用法 DIRECTIONS
おすすめ【かたくち鰯】
刺身——780（税別）
天ぷら——780（税別）
雑魚屋